

なかよし

てんどうちゅうぶしょうがっこう
天童中部小学校

がっきゅう
いちよう学報

R5. 3. 9

No. 33

「残り数日の小学校生活を過ごす子供たち」

卒業式まであと10日を切りました。様々な活動に“最後の”とつく時期です。6年生全体での卒業式の歌の練習が始まり、いちよう6組でも卒業に関する話が出てきています。そんな話をすると子供たちの顔も普段と異なり、期待しつつもやはり不安な様子でいます。そんな中、先日中学校の先生が教室に子供たちの様子を見学しに来てくれる機会がありました。その話を事前にすると「えー、中学校の先生くるの？見られるの嫌だな。」という子もいました。しかし、実際に中学校の先生が来て「聞いてみたいことがある人は聞いてみたら？」と子供たちに話すと、「中学校の勉強は難しいですか？」「部活動はどんな感じですか？」「中学校は他の小学校からも人が来るんですよね？」などと自分の聞きたいことを、とてもたくさん質問していました。「見られたくない。」という反面、気になることはたくさんある、といった様子でした。中学校の先生からも、中学生の生活について詳しく教えてもらうことができました。その先生が帰った後にA君はなにやら自分の身の回りの整理をし始め、「中学校に行ったらきれいにしておかないといけないんでしょ？」と中学校の様子を聞き、自分なりに考えることがあったようです。またB君は「違う学校の人と仲良くできるかな。でも中部小でも仲良くできたから大丈夫か。」とこれまでの生活をふまえて、前向きにとらえようとしていました。不安な気持ちを持ちつつも、前向きにいこうという子供たちの姿が見られた1日でした。

もう一つキャリアパスポートの学習での出来事をご紹介します。C君は自分のことをうまく表現することが苦手で、好きな本や得意なことの欄には「わからない。」と書いていました。その様子をしばらく声をかけずに見ていました。そして6年生になってできるようになったことの欄にいきました。どんなことを書くのかな～と思いながら見ていると、しばらく鉛筆を止めた後に「べんきょう」と書いていました。自分のこれまでの頑張りを自分で評価することは大人でも大変なことだと思います。それをC君は自分なりに頑張ったこととして書いたのです。「どうしてこれにしたの？」と聞くと「え、計算とか漢字とか頑張ったから。」と言いました。その理由を言えたことにもC君の成長を感じました。C君だけでなく、子供達は、自分のことをよく理解していると思います。それが必ずしも得意なことやできることの理解ではないかもしれませんが、「俺はこれができないんだよな。」という自己理解もあると思います。しかし、それもまた自分を多面的に分かっていることでもあると思います。そんなプラスもマイナスも認めて、自分という人間を好きになれるかどうかだと思います。卒業まで少ない日数にはなりましたが、少しでも「自分ていいな。」と思って次のステージに進んでいけるように、できる限りの支援をしていきたいと思っています。